

第7回東京宝島推進委員会 発言録

日時：令和4年7月29日（金）15時31分～16時43分

場所：東京都庁第一本庁舎7階中会議室

1. 開会

【事務局】

それでは定刻になりましたので、ただいまより第7回東京宝島推進委員会を開会いたします。本日はご多忙の折ご出席いただき、誠にありがとうございます。私は事務局を務めます総務局事業調整担当部長の木島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に会議資料についてご説明をいたします。本日の会議は、ペーパーレスで行います。会議資料は基本的に、お手元のタブレットやテレビモニターに表示し、紙では議事次第、委員名簿、座席表をお配りしております。ご確認をお願いいたします。オンラインでご参加の方は事前に事務局より送付をしておりますので、資料をご覧ください。

また、本日の会議には、山田委員長、大洞委員、楓委員、矢ヶ崎委員、そして、オンラインにてアレックス・カー委員にご出席をいただいております。

議事に先立ちまして、新たにご就任をいただきました矢ヶ崎委員をご紹介します。矢ヶ崎委員は、東京女子大学現代教養学部教授といたしまして、観光分野をご専門とされております。

矢ヶ崎委員から一言お願いいたします。

【矢ヶ崎委員】

本日から参加させていただきます、東京女子大学の矢ヶ崎と申します。専門は観光政策ということなんですけれども、本日、東京宝島ということで、私、生まれ育ちましたまちに離島が二つほどありまして、とても楽しみに来ております。東京にも島があるととてもうれしいことだと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の流れですが、山田委員長、大洞委員、楓委員より、島の視察報告と取組内容についてのご助言をいただいた後、東京宝島の二つの取組を事務局からご報告をさせていただきます。委員の皆様にご意見交換をしていただき、今後の東京宝島の取組に活かしていければと考えてございます。

それでは、開会にあたりまして、小池知事からご挨拶をお願いいたします。

2. 知事挨拶

【小池知事】

それでは、皆さん、こんにちは。お久しぶりでございます。カーさん、今日はバンコク、どこから。地球のどこかからかと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【カー委員】

バンコクからですね。よろしく願いします。

【小池知事】

よろしく願いします。

大変お忙しい中、お暑いところお出まじいただきましてありがとうございます。これ、2年半ぶりの開催なんですね、こういう形での開催。この間、新型コロナによって本当に社会も変わり、また、島しょ地域を取り巻く環境も大きく変化をいたしました。気候危機による自然災害も、本当に毎日のように起こりますし、激甚化しております。気候危機に、そして、エネルギー問題というのも、このウクライナ情勢によって生じているというところでもあります。むしろ、ネガティブな材料を出せば幾らでもあるんですけども、そこをどうやって危機をチャンスに変えるかではないかと思います。そして、また、この際だから、サステナブルリカバリーを実現するにはむしろ材料が整っているというぐらい考えたほうがいいかと思います。

皆様方には、宝島推進委員会として、これまでも現地を訪問していただいたり、そして、またご提言をいただいたりしております。一言で言うと、島にはポテンシャルが詰まっているということ。そして、地理的制約の克服に向けてデジタルを使っていく。それから、キャッシュレスやワーケーションなど、様々な環境の向上にもこれまでも努めてきましたし、この間のコロナ禍が、デジタル化がさらに進んだということもございます。そして、また、島は台風が通過するたびに電柱が倒れたり、電線に木が覆いかぶさったりして、結局、停電が起こるということから、無電柱化を島ごと丸ごと進めていこうということから計画を進めているところです。日本の将来を担う子供たちの教育でも島の魅力は活かせるものだと、このように思います。

そして、11の島々、それぞれ魅力が、特色がございます。何物にも代え難い宝物と言えるかと思います。ぜひとも一層磨きをかけていく。そして、今日は島に足を運んで現地の方々とも既に意見交換されておりますので、それらをしっかり伺いながら、ご専門の立場からの忌憚のないご意見をいただければと存じます。

この2年半、なかなか動きが取れなかったんですが、それをスピードアップして、そして、具体的に、かつ、見える形で成果を出していきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

【事務局】

ありがとうございました。

ここで、小池知事は、別の公務がございますので、退室をいたします。

(小池知事退室)

【事務局】

それでは、この後は、山田委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。

山田委員長、お願いいたします。

3. 議事

【山田委員長】

委員長の山田でございます。よろしくお願いいたします。

アレックス・カーさんもオンラインで参加されて、皆さんも揃われていますので、このメンバーで進めさせていただきたいと思っております。

今、知事からのお話にもありましたように、この委員会としては2年半ぶりの開催ということで、お久しぶりなんですけれども、我々委員は直接、島のほうにお邪魔をしたりしております。感染状況を見ながら、私も昨年の12月に、まだ行けていなかった利島を訪問をいたしましたし、各委員の皆様もそれぞれ各島をご視察をいただいているということで、この後、ご報告をいただければと思っております。

それから、今年度は、この東京宝島の魅力を一層磨き上げるという意味で、新たな取組がスタートしております。大きく二つ取組がスタートしておりますので、こちらも後ほどご紹介をしていきたいと思っております。

今日は、委員の皆様にご協力をいただきまして、実りある会議にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、お手元の議事次第にのっとり本日の議題に入りますけれども、まず、委員からの視察報告と、それから、ブランド化に向けた助言ということになります。大洞委員は新島と、それから式根島にお行きになりました。それから、楓委員が神津島ですね。そして、私が利島を現地視察をしたということで、その報告を皆様にまずお願いをしたいと思います。

はじめに、大洞委員からご報告、ご助言をお願いいたします。

(1) 委員からの視察報告とブランド化に向けた助言

【大洞委員】

大洞でございます。昨年、やっと新島、式根島に行くことができましたので、そのご報告を申し上げます。

新島、調布飛行場から飛行機で三、四十分という距離で、大変に行きやすいところです

し、式根島は新島から船で10分ぐらいなので、とても交通の便がいいところでありました。

新島村、大体、人口で2,700人ぐらいですよ。式根島も新島村ということで、2,700名のうち500人ぐらいの方々が式根島にいらっしやると、そういう感じだと伺っております。

まず、新島についてなんですけれども、この羽伏浦海岸とか、この展望台もそうですが、この海岸線というのは大変に有名で、今でもここで披露宴を挙げる方もいらっしやるようです。

着いてすぐに新島村役場で青沼村長と宮川副村長とお目にかかって、いろいろご説明を受けました。それが左上の画像です。右のこのコーガ石を活かした施設なんですけど、ご存じだと思いますが、新島特産のコーガ石を使って、一種の火成岩ですが、それを切り取って、ブロックのように積み上げるものですが、それを壁に使っている、こちらのHostel NABLAさんに伺いました。ここはなかなかよく知られているらしくて、この左下の、ちょっと見えにくい画像ですが、ここを訪れたインバウンドの海外の方々が、どこの国からいらしたかというのを全部ピン止めして表示してありました。大変、世界中からここにいらしているということがよく分かります。その応接室なのかダイニングルームなのか、一番大きな会議室のようなところがありまして、そこで宝島メンバーの方々と意見交換をいたしているのが右下の画像です。

新島ガラス、これは大変有名で、このコーガ石を原料としてできるこの新島ガラス、オリーブオイルの色といいますか、大変きれいなガラスの作品ができるわけですが、アートセンターでいろんな作品をご紹介いただいているところですが、皆さんご存じだと思いますけれども、建物自体がそもそもすばらしいということと、それから中も広くて、ここでは定期的にガラスアートフェスティバルが行われるということで、海外からも大変著名な作者の方、クリエイターの方がいらして、いろいろな作品をここで残しておられました。それもすばらしい展示であります。この右側が工房で、どういうことをしていっしやるかを見せていただいたところでもあります。

それから、この下に行きますと、島の歴史・文化を学ぶ博物館ということですが、こんな立派な博物館あるのと思うようなすごい博物館で、中がこのように、非常にビビッドに、まさに縄文時代から始まって、今説明を受けているというのが左下です。ここで、歴史をととても楽しく学ぶことができます。とてもこの島の規模の博物館とは思えないぐらい立派な博物館でありました。

レンタルオフィスと書いてあるんですが、これ実はクリエイティブセンターという村の施設でありまして、この建物もこれまたすばらしくて、こんなものがあるんだというぐらいびっくりしました。ここにはレンタルオフィスがあって、ここで先ほどNABLAというホテルでお会いしていた宝島のメンバーの方々とまたここで会いして、皆さんがここで宝島の活動について議論をしている、そういう場だそうです。

同時に、ここは大変広くて研修センターなんかもあるようで、大変に価値のある施設だと思います。

この下ですが、新島の宝島の活動の一つの中心の活動として、このペロタクシーというのがありまして、ペロタクシーというのはドイツの会社が造ったものらしいんですが、そこから入れた人力車ですね、言ってみれば。これは島の方がここで人力車を動かしながら、身近で会話をしながら街の中を、コーガ石の街並みを走るといふ、こういう趣になっておりまして、とても心和む取組だなというふうには思っております。

新島のブランド化に向けてちょっと感じたことを申し上げますと、それぞれの立場から新島の発展を願うメンバーが集まって、新島ブランドの発信に力を合わせて取り組んでおられます。その熱意には大変心を動かされるものがありました。新島にはくさやとか、新島ガラスとか、非常に独自の産物もあるんですが、まず、島の産業としては観光を中心としたサービス業が大半を占めておりますし、高齢化、人口減少も進んでいくということから、宝島事業は島外から新島とつながるファンをつくることに重きを置いていると。ここは大変理解ができるところでもありました。

ただ、実はいろんなことを考えると、これは両方できるんじゃないのかなというふうにもちょっと思っております。

この3番目ですが、宝島事業メンバーとの意見交換や今回の視察を通じて、事業をさらに進化させる余地も大きいんじゃないかなというふうに感じております。このペロタクシーとか、いろんなコーガ石の建物を保存しようというそういう運動があったり、いろんな活動があるんですが、そういう活動がそれぞれ点として存在するんだけど、島のほかの事業者の方々、宿泊業とか飲食小売業とか、そういった方々とより連携するという工夫がもう少し必要かなというふうに思います。コロナでなければなんですが、夏場はいろんなお客さんがいらっしゃるようですが、こういう方々も島をより好きになってもらうための動線をつくるというのはいくらかの工夫の余地があるかなと。

2番目に、新島ファンに的を絞ったつながりを提供できる仕組みと連携の体制づくりということで、特に冬場にもここに来たいんだというようなファンをつくるための工夫が、点ではなくて、連携をすることによって、よりいろんな工夫が、余地が生まれるだろうというふうに正直感じました。

最後に、新島特有の価値にこだわる。例えばということですが、新島にしかない、要するに、ほかの島に行っても売っているようなものもいっぱい並んでいる中に新島の産品がいろいろあるものですから、ただ、この中には、新島って結構ユニークな産品が、あめりか芋だとか、このガラスもそうですし、くさやもそうですし、非常にユニークな産品がありますので、ここにもっと的を絞ってはどうかと思ってみたり、それから、新島ガラスはこれはすばらしいものだと思うので、高価格帯カテゴリーとか、いろんな高級ブランドの事業と組んだりとか、いろんなブランド化の余地が高いのではないかなというふうに感じております。

次に、式根島ですが、新島の10分の1ぐらいの大きさであります。新島から、さっき申し上げた10分ぐらいで船で着きます。温泉がいっぱいありまして、海岸沿いにいろんな温

泉が、海の水と混ざりながらだと思っんですが、この右側は松が下雅湯、ここはフリーWi-Fiがありますので、ここに座りながらリモートワークができると。すばらしい環境ですね。下の足付温泉、それから右の地鉦、まさに、なたで割ったような崖がある、そこに挟まれたところにある温泉ということですが、温泉だらけのところですね。

そういった自然もあるかと思うと、このグランピング、簡単にグランピングって言うんですが、これはどっちかというところと高級ホテルみたいなグランピングでびっくりしました。横に飲食のお店もあって、ちょっとこれは心を動かされる場所がありましたね。

この下にありますのは、これはひだぶんさんという旅館ですが、完全バリアフリー対応のお部屋もあって、ここだったら自分の両親も連れてこれるかと思ったり、右側には、そうかと思うと、違う階にこのドミトリタイプというところ、若い方々が長期滞在するようなことに適しているような施設もあり、Wi-Fi もつながっていますし、本当にワーケーションに非常に適しているような設備が整っておりまして、大変よく考えられているなど。実際にいろんな料金表なんかを見ると、1か月滞在プランとかいろんなそういうものもありまして、実際にそこで仕事をされている方もお見かけしました。

コワーケーションプロジェクトを式根島では中心でやっておられるんですけども、島カフェを冬場はコワーキングスペースにして、このような形でやっていて、また、私どもが行った冬場でも、お一人ここで仕事をされている方がいらっしゃいました。

右下は、宝島のメンバーの方々といろいろと意見交換をしているところを写したところでもあります。

このまとめですけども、式根島について感じたことを申し上げますと、式根島の将来を担う人材を輩出するという目的に向けて、お客さんのターゲットと事業のコンセプトが非常に絞り込まれていると、明確であると。また、活動においても、東京都や環境省の支援をうまく活用されていると。例えば東京都とつながって、例えばIT企業の方と組んで、それでここでワーケーションの実験をやったりとかということと一緒に取り組まれていて、具体的にどんな人材がいるかということも顔も見えているというところで、非常に絞り込まれた活動です。

それから、コワーケーションは繁忙期の夏ではなく、あくまでも閑散期の需要づくりを狙った事業ということでありました。ただ、夏の訪問客にコワーケーションを紹介したり、冬と夏のよさを知ってもらうというヘビーユーザーづくりもあるんじゃないかなというふうには思いました。

一つ指摘をしたいのは、新島、式根島がそれぞれ独立した活動にどうもなっているみたいなんですけど、外の人間から見ると、両方がつながっているということの価値が非常に大きいので、本当は連携して、より連携した取組ができるといいなというふうに強く思いました。

最後に、全体ということなんですけど、新島、式根島も両方とも言ってみれば人口問題とか、人をいかに、関係人口をいかにつくるかということに焦点が当たっているわけなんで

すけれども、そういうことを考えると、新島、式根島だけじゃなくて、宝島全体でどのような、ブランディングと書きましたけれども、どちらかというプロモーションに近いかもしれませんが、どのようなプロモーションができるかということを考えるということが非常に大事なんじゃないかということ強く感じました。島一つひとつの力もあるんですけれども、それをどうやって合わせるかということも同時に考えていくべきかなというふうに感じました。

以上です。

【山田委員長】

どうもありがとうございました。

それでは、今度は楓委員、よろしく願いいたします。神津島ということですね。よろしくどうぞ。

【楓委員】

ありがとうございます。

私が神津島にお邪魔いたしましたのは2020年の12月でございますから、一昨年のごことで、それ以降、あまりコロナの状況は好転していませんが、島の状況はかなり変わっています。そこで、つい先日、オンラインで視察の時にお目にかかった皆様方と、現状をお話しする機会を都庁がつくってくださいました。視察の報告と、オンラインでの意見交換会でのお話を合わせてお伝えできればと思っております。

今のお話にあった式根島のちょっと下にあるのが神津島の位置でございます。

現在、人口は1,800人ぐらい。新島に比べると一回り小さいサイズの島になるかと思えます。

新島と同じく、調布から飛行機が飛んでおります。もちろん船便もございます。最初に村長さんと、コロナで観光が全滅した中でどう乗り切るかというお話が中心でした。

何よりも神津島は、国際ダークスカイ協会というアメリカの協会が認定した星空保護区であることが特徴です。そこが一番神津島のある意味ではブランドになっているかと思えます。この写真にありますように、島の皆さんのご自宅も、夜になったら明かりが漏れないようにカーテンをしっかり閉めて、星空がよく見えるようにしましょうといった取組もされていますし、街灯をLEDで、なおかつ光が下のほうに向く、この写真の上と下を見ただけであれば分かると思いますが、星空を邪魔しないような街灯の改修というのも、ほぼ100%終わっています。

星空の観察は当然夜に行われますが、やはり天候に左右されるところが一番の弱点かと思えます。写真は昼の風景と夜の風景です。たまたま伺ったときは、見事な星を見ることができました。

神津島では、観光協会や民間の事業者さんも非常に熱心に宝島事業に取り組んでいらっ

しゃいます。島のもう一つの特徴としては、お水が豊かなところで、このお水をほかの島々に分けていたというような伝説も残っています。

それ以外にも、もちろん夏の観光用にも海を楽しむ施設やキャンプ場、登山道路も整備されています。

7月12日、前回お会いした方たちにお話を伺う機会を頂戴しました際の写真です。このことに関しては、次のスライドでも触れますので、先に進んでいただけますでしょうか。

神津島のブランド化に向けてということで、先ほど申し上げましたように、東京都内でありながら星空保護区だということにインパクトがあります。しかしながらまだまだ、都民も含めてそのことが認知されていないのが非常にもったいないという認識を持っております。それですので、まず、神津島から星空保護区を発信する際には、必ず国際ダークスカイ協会認定というお墨つきをつけて発信するというような工夫が必要と思っております。

それから、二つ目は、定期的かつビジュアルも重視した情報発信というのは、これは大分この間、進めていってしゃいました。実際にフェイスブックやツイッターを活用されていて、お客様をSNSで集客されていたというようなお話もありました。そういった情報発信の際にも、やはり星空保護認定区（国際ダークスカイ協会認定）と、しつこくてもこういう価値をきちっとお伝えする必要があると考えております。

それから、三つ目ですが、これは飛躍的に取組が進んでいってしゃいました。古谷さんとおっしゃるネイチャーガイドの方がいらしてしゃいます。この方は神津島の出身ではなく、首都圏のご出身で、かつ、ニュージーランドのネイチャーガイドを経験されてきており、インバウンドのお客様にも十分対応できる方です。お人柄、スキルも含めて、ある意味で神津島を象徴するような方なんです。ですから、彼を中心として、神津島に行ってスペシャル星空ガイドになろうというような動きをなさったらどうでしょうかとお伝えしたところ、昨年からは星空ガイド養成講座を島の中で始められていて、今年度は、その中に神津高校の高校生が5人参加したと伺いました。高校生は島を出て大学に進学したり、就職される方が多いと思いますが、高校生時代に星空ガイドに認定されて、そういう資格を持っていることは大学に行っても、お仕事に就いても、彼ら彼女らにとっての一つの誇りですし、そのことを聞いた方も、神津島への関心を持っていただけるきっかけになると思っております。ですので、このガイド養成事業に関しては非常に進んでいるという印象を持ちました。

先ほど新島のお話でもありましたけれども、そうはいつでも、夜の星だけを見てくださというわけにはいきませんので、やはり神津島ならではのアピールをもっと進めていくことが必要であると思っております。ここにブルーの字で、星空をモチーフとした、これはロゴもつくられて、それから、ベンチやモニュメントも設置されています。それだけではなくて、星と水の島のイメージのある食品の開発など、まだまだ開発の余地があるという印象を持ちました。

次の、移住・二か所居住・ワーケーションへの対応ということで、先ほどの式根島のお話を伺うと、コワーケーションスペースなどの対応が進んでいる印象を受けました。神津島の場合は、きちんとした聞き取りができていませんが、最大の悩みは、やはり移住、二か所居住やワーケーションで長期滞在をしたいという方に対しての、住む場所や長期滞在の施設に課題があるという印象を受けました。

先ほどの古谷さんもそうですが、宝島事業で実際にイニシアチブを取っていらっしゃる方は移住やIターン・Uターンの方であったりします。そういう島で積極的にリーダーシップを取ってくださる可能性が高い方たちを受け入れる体制を整えば、さらに宝島事業も活発化すると考えられますので、この辺りの環境整備に関しては、ぜひ都庁のバックアップもお願いしたいと考えております。

三つ目の NPO 地域づくり法人の活動ということですが、これも先ほど申し上げた宝島のメンバーの方たちが、NPO ではなくて、きちっと利益を残していく株式会社が良いだろうとお考えになり、こうづしま観光公社を設立されています。そういった意味では、うまくビジネスを回して、再投資をして、さらに観光環境をよくしていきたいという、積極的な取組をされているという印象を受けました。

先ほどの星空養成ガイド講座は、今は島の方だけの養成講座ですが、今後は多少高い講座料を取ってでも、島外の方たちにも受講の機会を広げるといいのではないかと考えております。

それから右下は、以前何か象徴するものをつくったらというようなお話を差し上げたところ、かわいらしいロゴマークを作られ、このロゴマークを使った商品も展開されていました。

また、右側のお星様に向かって手を伸ばしている女の子のモニュメントということで、このモニュメントを観光のお客様が SNS にアップすることによって、神津島の PR に役立っていると思っております。

今回の意見交換会はとっても貴重な機会でした。神津島は一步も二歩も先に進み始めているという印象を受けました。以上でございます。

【山田委員長】

どうも、楓委員、ありがとうございました。

それでは、最後に、私のほうからご報告をいたします。

山田が行かせていただきましたのは、利島です。報告書の表紙には椿、それから、右側に百合の写真も出ておりますけども、この百合についても後でちょっと触れたいと思います。

二等辺三角形が描かれておりますけれども、富士山までの距離が東京まで 100 キロ、そして、ちょうど利島までも 100 キロだということで、東京ー利島は 140 キロと、ここに 310 名、179 世帯が住んでいらっしゃるということでございます。

本当に真ん丸な島なんですね。そして、島の北側のほうに集落が集中をしております。

私が訪問いたしましたのは、昨年の12月15日でございます。楓委員は一昨年行かれたんですよね。大洞委員は昨年行かれましたね。交通機関としては、ジェット船で竹芝から行きまして、大島に着いて、そこからヘリコプターで利島に渡ると、こういう方法でございました。

村長との意見交換とありますけれども、美しい島の自然があるわけですが、その中で、非常にアイデアあふれる方々がたくさんいらっしゃって、村長も就任されて間がない、お若い村長でいらっしゃいます、村山さん。村長と、この宝島に関係するメンバーの皆さんが集まってディスカッションを、結構長時間させていただいたと思います。環境配慮型の生ごみ処理層も村の役場の裏側に設置されておりますね。

現下の取組としましては、これは昨年度の取組になりますけれども、明日葉椿油ソースというのがありまして、これは専門家の方も入ってレシピ開発をして、出来上がったサンプルを、これは面白いですね、島民全員にサンプルを配布をしまして、そこでアンケート調査をするという、そういう島民巻き込み型で進めていらっしゃるということで、この写真の右側の上にありますのが、明日葉椿油ソースで、それを使ったお弁当を私も訪問時にいただきましたけども、大変においしかったです。この左側の下ですね。一方こちらは、東京青山のファーマーズマーケットという催しで販売をなさったときの写真なんですけど、私もお邪魔しましたが、大変人気で売切というような状態でありました。私も二つ買い求めてうちで食べさせていただいたんですが、非常にいいお味で、イタリアンにもなるような、そういう特別な美味なるソースでございました。

また、これまでも島の牽引役となっている椿油なんですけれども、こちらも神代椿というブランドを立ち上げまして、COSMOS 認証も取得をして販売をしております。パッケージ等もリニューアルというか、全く新しいパッケージにして販売をしたところ、非常に好調に売れているということで、こちらは私どもの委員会でもサポートしている事案ではありますが、どうしても年配層にしか売れないということで、もっと若い人にもこれを売っていききたいんだが、どうしたらいいかというようなご相談もございました。これからやはりZ世代、今の25歳ぐらいまでの若い方々にも買っていただかなきゃいけないということで、ちょっとパッケージも変えて、値段を下げるために、とってもおいしい利島の脱塩海水を使って、これは水道水になっているんですけどもね、希釈をしてスプレータイプで販売したらどうだみたいな話もさせていただいたわけでありまして。

椿油が本当に潤沢に取れる、日本一か二ですね。長崎もつくっておりますけれども、そこ1位か2位を争うというような取れ高でございまして、そこで山の中の椿の林を見学して、また、それを精製している椿油の精油センターも訪問いたしました。これもやっぱりJAがしっかりやっているということで、管理された椿林なんですね。こういうところがしっかりと、そして毎年絶やさず一定量がつくれるというような背景になっております。また、椿の倒木も大変に面白い木材としての素材感がありまして、こういうものを昔から

使って櫛を作っていたりもするわけですね。黄楊の櫛ってよく知られていますが、あれには椿油が必要なんですけれども、何と椿でも櫛が作れるということでございました。

そして、とてもおいしい浄水ですね。こちらを造っている浄水場が上の写真でございます。大変な資金を投下して、これを造っているということで、オペレーションもずっと見ていないといけないということで大変なんです、これが島の、ある意味で島民を支える水になっております。そして、また、島の文化についてもいろいろとご紹介をいただきました。こちらは、島の郷土資料館を訪問したときの様子でございます。右側の下は、これは2レーンしかないボーリング場でございます。

そして、利島というのは、縄文時代から人が住み着いていたということで、その建物跡も残っております。

利島のブランド化について、いろいろと考えてみたわけでありましてけれども、千客万来の島か千客行けない島かと、こういうふうに分けて捉えることができると思います。

これは例えば隣の大島なんかは千客万来の島だと思えますが、キャパが大きくてアクセスが容易であるというようなところでありましてけれども、千客行けない島はどうしたらいいのか。キャパシティーが小さいし、アクセスが不便だと。観光は一定以内に維持をしながらも、産品と産業で攻めていくアウトリーチ展開が重要じゃないかというふうに思っております。これは、島民の皆さんの生活基盤を支えるためにも重要だと思います。

その下、千客行けない島についてはどうしていくべきか。まず、島自体のブランド化で付加価値を高め、それから、産品自体を島の大使、エバンジェリスト化することですね。ほかと違う強いコンテンツを開発をしていくとか、その開発に際しては、内と外の知恵を結集していくということでしょう。それから、私も3回目にしてやっと上陸となったんですけれども、波が高いと港に船が着けないとか、いろんな問題がありまして、なかなか行きづらい。けれども、島に行けたらラッキーだと、そういう感じを醸成していくことが大事だと思います。そして何よりも、ブランドのチアリーダー、要はそれをぐいぐい情熱的に推進する人とチームが必要であるということだと思います。

とすると、次のページですが、利島のブランド化、今の現状どうでしょうか。まず、ブランドの付加価値というのはまだ十分ついてないと思えますが、これは発信不足ということもありますし、一方で、今申し上げた産品の大使化、ここを追求するという。それから、産品・産業大使にできているかという、椿油は一定できています。けれども、もっともっとパワーアップができると思えますし、その他のコンテンツも強化できそうです。そして、強化できるコンテンツ開発の余地が十分あるというところでは、例えば加工食品とか焼酎とか、いろんなレア体験、こういうものもブランド化できるコンテンツだと思います。そして、内外の知恵が集結しているかという点においては、ここは利島のすごい強みなんです。知恵のある人、知恵者が非常に多い。島が小さくてもアイデア、知の宝が島民の間に満ちている、センスがあるというふうに思いました。島に行けたらラッキーというところは、これからまだまだ整備をしていかなければいけません。ただ、有望なブラ

ンドチアリーダーとしては、若き村長がおられますし、それを支える体制もそろっていると思いました。

このブランド化に向けて、まず、利島はアイデアとアイデアマンの宝の山だということ、もともとの住民の方も移住者の方も、全島民が協力をし合って島をブランド化する創造性豊かな島ということが言えると思います。そうした中で、今ここに焼酎の写真が出ておりますけれども、これはさくゆりという、大きな大輪の花をつける百合があるんですね。百合の根っこ、ユリ根を使った焼酎なんでもありますが、ちょっと左側の雫というパッケージですが、どこの雫、何を原料にしている雫か、何を使っているのか、どこの産品かということが分からないので、なかなか大使化、エバンジェリスト化できないということで、例えば右のように、大きく利島と書いてあります。利島の「さくゆり」を使っていますと。その百合を使った百合雫ですというようなことをアピールをしていくと面白い展開ができそうだなというふうに思いました。

私は以上でございます。

さて、ちょっと皆さん、駆け足でご説明をいただきましたけれども、それぞれの島の現状、前に進んでいるなという気がいたしました。各島のブランド化に向けた取組がかくも進んでいるというようなことは皆さん知っていただけたわけですが、皆様からのご報告とご助言についてご意見、ご感想、ぜひ皆さん、委員の皆さんからいただきたいと思えます。

オンライン参加のアレックス・カーさんも、ご意見あるときには、手を挙げて合図を送っていただきたいと思えます。

それでは、よろしく願いいたします。どなたからでも結構ですが、いかがですか。

では、大洞委員から。

【大洞委員】

皆さんのお話も伺っていて、自分の経験も考えると、基本的にすごくいいものを持ちながら、まだ未開拓なんだなというギャップを感じたというのが一つと、それから、もう一つが、例えば、利島の椿油も、あの精白度ってすばらしいんですね。だから、ほかの椿油と比べてみればすぐ分かるみたいなのところもあるし。それから、さっき私が申し上げた新島の、行ってみるとみんなびっくりするようなアートがあつたりとか、そういうことなんだけれども、やっぱり一つどの島にも共通してあることは、アクセスの悪さ。悪さというか、なかなか青ヶ島も特にそうですけれども、行き着く可能性が 50%みたいな、そういう状況があるわけなので。式根島もそうなんですけど、夏に来るお客さんは大変ありがたいけれども、そこだけに依存するんじゃなくて、要するにアクセスの悪さを乗り越えて島と結びつくような人をいかにつくっていくかということがこの大きなチャレンジなんだと思うんですね。

そういう意味で考えると、先ほど楓委員もおっしゃっていた移住とか、居住環境を整え

る。それから、子供を含めた生活環境もワンセットで考えたときに、やっぱりこういうところに行きたくなる方々っていらっしゃるはずなので。これは東京都でも今、東京多摩島しょ移住定住相談という相談所というのが、窓口ができていようなんですけれども、もう少し積極的にそういうことができないものだろうかというふうに思ってみたり。要は、ターゲットを絞って、そこに向けたすごいインパクトのあるプログラムを発信していくということを、島を横断してやるような活動というのを考えられないかなというふうに思った次第です。

【山田委員長】

どうもありがとうございました。

それでは、今日初参加の矢ヶ崎委員、いかがですか。

【矢ヶ崎委員】

ありがとうございます。ご配慮いただきまして、発言の機会を先にいただきまして、ありがとうございます。

今もご報告をうっとり拝聴しておりました。本当に宝物だなというふうに思いました。その観点からも、皆様方のご発表の最後のまとめが、またそれぞれに的確なものでありますので、その方向性で進めるのがやはり大事なんだなと思いつつ、私なりにやっぱり一番大事だなと思ったところは、島のキャパシティを十分に考えた上で、島のキャパを壊さない抑えた人数。そして、その人数、少数の人に来ていただくには、今、大洞委員がおっしゃったように、アクセスの悪さをもともせず、強く発信される島の魅力を求めてやってくる人ということかなと思っております。後背地に東京都という、東京都のビッグサイズの人口の集積地がありますし、日本の中でも所得層の高い方々、教養の高い方々が住まっているエリアがありますので、マーケットとしては十分なのではないかなというふうに思った次第です。

また、楓委員がおっしゃったことの中で、とても大事だなと思いましたが国際ダークスカイ協会という言葉が絶対入れましょうということなんですが、このお話を拝聴いたしまして、私、長崎、小値賀という島のことを思い出しました。ここは、世界的に教育旅行のメッカとして、アメリカのピープル・トゥ・ピープルという、かつての大統領がつくったファウンデーションがあるんですけども、ここに2年連続で世界1位と認定をされたところなんです。このように、小さな島であっても世界的な団体の認証を獲得して、それを強みとして前にぐっと押し出していくということは、島だからこそ可能なのかなというふうに思った次第です。

最後に、今申し上げたような方向性かなと思っているんですけど、一方、私が教えている学生たちの中に、実は島との接点がある子がかなりいます。それはなぜかという、総務省さんがやられているふるさとワーキングホリデーであるとか、大学が推奨しておりま

すアクティブ・ラーニングで学外に飛び出して行って、現場に飛び込んでみなさいという、そういう履修の時間があるんですね。そのときに、ふるさとワーキングホリデーの制度を使うんですけども、その際に、女子学生、島を好んでまいります。与論から隠岐から、東京都の島でいうと、利島、大島、神津島、行っております。利島に関しては、今、山田先生がおっしゃったように、2日目の上陸で何とか上陸できたということで、すごい感動しておりますけれども、こんなふうに若い世代が、実は島との接点を持つことができるという、そういうこと、すごく大事なのではないかなというふうに思った次第です。ありがとうございます。

【山田委員長】

どうも貴重なご意見ありがとうございました。
楓委員、お願いいたします。

【楓委員】

ありがとうございます。

今回の神津島の宝島関係者との意見交換会で皆様方のお話を伺い、やはり宝島の委員をされている方たちは非常に熱心ですし、熱意だけではなくて、物事を深く考えていらっしゃいます。先日オンライン視聴をさせていただいた宝島会議でも参加していらした方も非常に熱心で、島への愛というか、島をどうにかして動かしていきたいという気持ちにあふれていらっしゃいました。だからこそ、宝島のメンバーだけではなくて、島の方全員をうまく取り込んでいくというか、宝島事業を島全体に広げていくような工夫が必要の時期になっていると感じています。そのための良いアドバイスというか、その辺りがこれから求められてくるという印象を持っております。

以上です。

【山田委員長】

ありがとうございます。
アレックス・カー委員はいかがですか。何かご意見をお願いいたします。

【カー委員】

今日の発表はとっても面白く聞きましたね。イギリスのサークという、ちょうどイギリスとフランスとの間にある小さな島が同じような取組を昔からやっていますね、私も行きたいんですね。行きたくて、そういうものに非常に魅力を感じているので、日本にもあるんだということに驚きました。もっとそれを知らせるべきだと思います。かなりこれはロマンの話で、島の人たちの理解も得て、そこまで持っていくこと自体も感心しましたね。その辺はもっと、幅広く一般に知らせる必要があると思いますね。

あと、ちょうど3年前、これもコロナのちょっと前ですけども、青ヶ島へ行ってきました。そのときも、もちろん交通は、アクセスは大変だということはよく分かっています、それこそ50%ぐらいの確率でしか行けないんですね。しかし、とってもすばらしかった。これは、交通アクセスをよくさせることは、よっぽど大げさなことをやらない限りは無理じゃないかと思えますね。ですから、まず、千人の客が行けない、アクセスがあまりよくないから逆に貴重というか、逆にロマンのある島だというアピールは必要だと思えますけれども、それに加えて、残念ながら青ヶ島を含めて宿がちょっとネックだと思えます。

この頃の人たちはちょっとしたワーケーションとか、バカンスとか行きたいとき、星空が見たいとき、ちょっとしゃれたきれいな宿がないと難しいので、小値賀も成功しているのがそういう宿があるということなんですね。残念ながら、さっきのグランピングは非常に面白い、これこそしゃれた感じでいいなと思っていましたけれども、全体的にはそれが本当に少ないので、それを少し解決しない限りは、特に海外の客もそうだと思いますけれども、東京都内のちょっとしたしゃれたお姉さんたちとかは行かないと思えますね。ですから、それが大きな課題だと思えます。

【山田委員長】

どうもありがとうございました、カー委員。

そうですね、宿の問題というのは非常に大きくて、ずっと我々も注目をし続けているところではありますけれども、十数年前に私、内閣府で推進した沖縄の美ら島離島活性化プログラムというのがあったんですが、そこでもやっぱり宿の問題というのはいろいろと指摘をしました。ちょっと今年、足を伸ばして、昔二度ほど公務で行きました離島に参りましたところ、とてもすてきなプチオーベルジュができておまして、そこでフランス料理を出していたんですね、全くびっくりしましたけども。そういったこともやろうと思えば、プレハブ1個なんですね、プレハブハウスを持って行ってホテルにしているんですが、取組としてはできるんじゃないかなというふうに思いました。

ダークスカイ協会というのも、これはぜひ皆さんに知ってもらいたいですよね。どうもありがとうございました。

それでは、それぞれの委員のご報告と、それから意見をお出しいただきましたところで、次の議題に参りたいと思います。

(2)「東京宝島」の取組について

【山田委員長】

この東京宝島の新たなる取組について、事務局からご説明をいたします。よろしくお願ひします。

【事務局】

では、事務局より本年度の東京宝島の取組につきまして、二つの新規事業をご報告をさせていただきます。

まず、東京宝島アクセラレーションプログラムになります。こちらのほうは、目的、募集対象、支援内容等はここに書いてあるとおりでございまして、選定結果といたしまして8島分、12件を選定をさせていただいております。その12件につきまして、簡単にご紹介をさせていただければと思います。

一つ目が、大島からは2件、島とのより深い関わりの創出に向けたツアーの開発とバレーボールをきっかけに大島をスポーツツーリズムの目的地とすることを目指す取組。

続きまして、利島からは、島の特産原料を使用した食べるラー油の開発。

式根島からは、関係人口の増加に向けたアイランドワーケーションの推進になります。

続きまして、神津島からは、閑散期におけます観光需要の喚起に向けた星空クルーズツアーの開発。

御蔵島からは、郷土料理のレシピの製作。

また、八丈島からは2件ございまして、一つが観光アイコンとなるキャラクターの開発。あと一つは、通年観光の実現に向けた山の魅力を発信する新しい旅の開発になります。

続きまして、青ヶ島になります。こちらも2件ございまして、郷土文化の発信やウェブメディアの制作。

父島からも2件ございまして、島の未来へ向けて話し合う会議の開催や10日以上ロングステイの訪日外国人来島者増加を目指す取組になってございます。

この次に、ご参考までに、各島の東京宝島ブランドコンセプトのほうをご紹介をさせていただきます。

続きまして、東京宝島サステナブル・アイランド創造事業につきましてご説明をさせていただきます。

目的、概要等につきましてはこちらに明記させていただいておりますとおりでございまして、事業スケジュールといたしまして、現在、計画のほうの構想案を承認した町村が三つほどございまして、今、その町村が事業計画の策定に向けて民間事業アドバイザーと共に検討を進めているところでございます。

今年度承認された3町村の事業構想の概要をご紹介をさせていただければと思います。

一つが、大島町からは、'GEO'の魅力と連動した自然・歴史・文化の発信として、三原山滑走台といった過去の歴史と融合した新たなアクティビティの開発。また、火山博物館を一新したジオパークの拠点施設となる構想でございます。

また、八丈町からは、DXがつなぐ未来への架け橋といたしまして、ザトウクジラを中心といたしまして、デジタル技術を用いた環境保全と観光資源活用が調和した新たな観光モデルの構築。さらに、防災行政分野にデジタル技術を導入し、社会課題解決に取り組む構想がございます。

新島村になりますけれども、ガラスとコーガ石が彩る新たな魅力の創出といたしまして、

地域資源でもございます新島ガラスとコーガ石を用いた新たな魅力創造、発信や温泉ロジックをデジタル技術で省人化して、持続可能な宿泊施設運営モデルを確立する構想となっております。

説明は以上となります。

【山田委員長】

ありがとうございました。

今の取組について何かご意見等ございましたらお聞かせください。それぞれのプロジェクト、島から手を挙げてこういうことをやりたいんですということを選んでこういうことになっているんですが、かぶっているのがあまりない感じなんですね。それぞれに個性的なお考えと提案があって、それを都が支援していこうということですけども、今の中で特に気になったものがあつたら聞いていただけたらいいと思いますし、あるいは全体的な支援の在り方等についてご意見をいただいても構わないかと思いますが、いかがでしょうか。

ちょっとお時間の関係でお二人お伺いをしたいと思います。

では、どうぞ、矢ヶ崎さん。

【矢ヶ崎委員】

すみません、ありがとうございます。

どれもすばらしく、かつ、意欲的な取組だというふうには拝見いたしました。このお互いの島で何をやっているかということについて、島間の横の連携ですよ、やっていることは違っても、こんなことをこの島でやっているんだ、こんなノウハウなんだね、こんな人たちとこんなふうにはへえみたいなの、お互いの横の連携みたいなのが取れるような、中間報告会とか成果報告会とか、何かそういうのは予定されているのでしょうか。

【山田委員長】

いかがでしょうか。お答えいただけますか。

【事務局】

まずはじめにご紹介させていただきました東京宝島アクセラレーションプログラム、こちらにつきましては、各島の取組状況等につきまして、お互いに報告するような機会等を設けていきたいと考えてございます。また、東京宝島サステナブル・アイランド創造事業、こちらにつきましては、島しょ地域におけます三つの町村のほうの今、事業案のほうが採択されておりますので、それが計画の段階になって具体化になりましたら、恐らく対外的にも公表という形でPRをさせていただいて、そうした中での情報共有ということが進んでいくかと思っております。

【山田委員長】

宝島会議で報告とかは特にはない。

【事務局】

またこの会議にも、改めてその進捗状況と成果等につきましてご報告をさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【山田委員長】

ありがとうございます。

もう一方。じゃあ、大洞委員。

【大洞委員】

アクセラレーションのほうはいろんな意味で背中を押す活動としてとてもいいと思いますし、それから、サステナブル・アイランドの取組は、先ほどこちょっといろんな島全体で横串でどういう価値を出していくのかということ考えたときに、移住の話もさっきありましたし、いろんな島でコワーケーションみたいなこともやっておりますし、このサステナビリティも、一つある意味、宝島全体を考えたときの一つの目標というか、目的になり得るかなと思ったので、非常に前向きに評価して、見ていきたいと思います。

【山田委員長】

ありがとうございます。

それぞれ報告をする、あるいはプロセスの中で、お互いの事業を知り合うというようなことで全体の整合みたいなものを図っていければいいなというふうに、今のお話を伺って思いました。

この事業の違いみたいなことを一言で言うとうどういうことになりますかね。アクセラレーションプログラムというのは、島のそれぞれの住民の方が主体的にやっていきますよということで、サステナブル・アイランド創造事業についてはどちらかという、各自治体がしっかりと先導してやっていくと、そういう違いだと思ってよろしいですね。

【事務局】

山田委員長のご指摘のとおりでございます。

【山田委員長】

では、どうもありがとうございました。

この取組について、皆様方も一つこれからよろしくご支援をいただきたいと思います。

それでは、まだご意見もおありかと思えますけれども、そろそろ会議も終了時間が近づいてまいりましたので、この辺りで意見交換は終わりにしたいと思います。

島の方々から非常に意欲的な取組が出てまいりましたので、これはそれぞれの島でブランド化の意識が着実に根づいているんだなというふうに思いました。事業を二つ出してきたというところもありますよね。大変に、またこれが似通った内容ではなくて、違う内容で面白いなというふうに思っております。

それから、以前からお話ししていることではありますけども、地域のブランド化というのは、やはりある程度時間が必要だということなんです。ですから、各島の取組が実を結ぶように、引き続きこの事業を東京都と本委員会ですっかりサポートしていきたいと思えます。

また、委員諸氏におかれましては、いろいろな知恵をお出しいただきたいというふうに思えます。

では、総務局長、一言お願いいたします。

【野間総務局長】

本日は、各島のブランド化に向けました取組について、熱心なご議論ありがとうございました。

実は、私は数年前に行政部長をやっております、そのときにこの会議に参加させていただいたんですけれども、そのときからかなり島のブランド化が進んだなというような、今日は認識を新たにしたところでございます。島の皆さんが相当気づきとやる気みたいなものが出てきたのかなというふうに思っております。島の皆さんが自分の島の宝物を気づいて、自分で発信していくということがまず主体としてあることが大事だと思っております。先ほどご指摘がありましたように、私どもで今足りないのは情報発信だと思っております。これは島に限らず、行政の施策そのものの発信がやっぱり足りないというのは常に我々も自覚しているところでございますが、これについてさらに工夫を重ねてまいりたいと思っておりますので、また委員の皆様のご指導、ご指摘などをいただければと思っております。

あと、今日はいろんな割と小さい島のお話が出たんですけど、私は島を訪問していて、利島とか島の形そのものを楽しむみたいなものもあるので、そういう楽しみ方もマニアックかもしれませんが、あつていいのかなと思っております。山田委員長から、島の特産品をエバンジェリストにというお話はまさにそのとおりだと思っておりますので、多くの方に特産品の魅力を気づいていただくようなことを、実際に手に取って、足を運んでいただくようなことが大事だと思っておりますので、この辺も東京都としてもしっかり進めてまいりたいと思っております。

これから、先ほど宿泊施設の話もありましたし、まだまだブランド化でやることもいっぱいありますので、各島の皆さんと私どもも連携を取りながら、しっかりこの事業、この

事業以外のものも進めていきたいと思っておりますので、引き続き委員の皆様方のご助言をよろしくお願いしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

【山田委員長】

野間さん、どうもありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項がありますよね。木島部長、お願いします。

【事務局】

次回の委員会の日程についてになりますけれども、現時点では未定となっております。また、事業の進捗状況、先ほど今年度から開始いたしました二つの新しい事業等の進捗状況等につきましても、適宜ご報告等をさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、本日、これまでの宝島の取組の成果のほうを、こちらの前のほうにいろいろご用意をさせていただいておりますので、お時間の許す委員の皆様におきましては、ちょっと見ていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【山田委員長】

どうもありがとうございました。

本日は本当に久しぶりの、2年半ぶりの委員会。カーさんは残念ながらリアルじゃないんですけども、ほかの皆さんはリアルでこうやって集まったのはすばらしいと思います。今日はゆったりと議論ができたかなというふうに思っております。

4. 閉会

【山田委員長】

これにて、第7回の東京宝島推進委員会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上